

邦楽  
明日への  
第1回



# 杵屋佐喜・ 稀音家六四郎

それぞれ家の芸を大切に  
する二人が大競演

稀音家六四郎



杵屋佐喜

“いま”をつくる、“明日”を切り開く

© 堀田力丸

2023年1月8日(日)午後2時開演



チケット  
(税込)

● 2公演セット券 (1月8日&2月25日) 5,000円 10月27日(木)正午発売  
● 単券 3,000円 (税別 1,000円) 11月10日(木)正午発売

チケット  
お取扱い

● 紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>  
● チケットぴあ <https://t.pia.jp> Pコード 223216 (単券のみ)

紀尾井小ホール  
紀尾井ホール5F

主催] 公益財団法人 日本製鉄文化財団  
[協力] 森永製菓株式会社

〒102-0094 千代田区紀尾井町6番5号  
<https://kioihall.jp>  
TEL.03-5276-4500 (代表)

最寄駅  
・四ツ谷駅 (JR線・丸の内線・南北線) 御町口徒歩6分  
・麹町駅 2番出口 (有楽町線) 徒歩8分  
・赤坂見附駅 D出口 (銀座線・丸の内線) 徒歩8分  
・永田町駅 7番出口 (半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分



# 新シリーズ 「邦楽明日への扉」に寄せて

## 邦楽 明日への

これまで、「邦楽探検 詞章の謎」「音楽でつづる文学」「紀尾井たつぷり名曲」「午後の音楽会」など、様々な視点と斬新なアプローチによって、日本の伝統芸能ジャンルの特徴と可能性を探求する意欲的な公演を開催してきた日本製鉄文化財団が、全く新たなシリーズとなる「邦楽 明日への扉」を来年1月からスタートします。

このシリーズでは、邦楽の様々なジャンルの最前線で活動している若い世代の演奏家たちに焦点を当て、今まさに旬を迎えているその真摯な演奏を、本格的ななりサイタル・ステージ形式で開催することで、舞台を作り上げ、お客様と豊かに交歓していくことを目指していきます。その第1回は、杵屋佐喜さん、稀音家六四郎さんによる「長唄の世界」、第2回は、邦楽器による新しい時代の音楽を創り続けている「邦楽四重奏団」を取り上げることが発表されました。

杵屋佐喜さんは、この世代の長唄唄方を牽引するひとりで、歌舞伎公演や日本舞踊の会で佐喜さんの演奏に触れた方々も多くおいでのことと思います。佐喜さんは、長唄古典の継承に強い意欲を示すとともに、創作作品への取り組みも高く評価されています。その一番の魅力は、味わいて深い声質と、一点迷うことのない細やかな

詞章表現にあります。古典はもとより舞踊界・創作邦楽界で現在引張りだこの所以です。稀音家六四郎さんも長唄界のこの世代のトップランナーのひとりで、佐喜さんと同じく江戸時代から続く長唄界の名門の生まれです。50代の若さで亡くなった父・五代目の名跡を継がれました。六四郎さんの演奏の魅力は、確實かつ華麗な技巧に加え、その音色が醸し出す古典ならではの味わいがあります。

長い年月を経た伝承を今に伝える長唄界にも流派・流派が厳然と存在しています。実際に、佐喜さんと六四郎さんは異なる会派の所属ですので共演の機会は得難いのですが、「邦楽 明日への扉」第1回公演では、唄方と三味線方の若き演奏家二人の競演が実現します。

演目にも趣向が凝らされています。佐喜さんの曾祖父にあたる四世杵屋佐吉は、大正昭和前期の長唄界において箏の宮城道雄に比肩する活躍で、楽器改良や長唄界の大きな改革をもたらしました。その四世佐吉が創作した「芙蓉曲」を佐喜さんと特別出演のメゾソプラノ・湯川亜也子さんが、そして六四郎さんの曾祖父、二世稀音家浄観が作曲した「神田祭」を六四郎さんが、それぞれ演奏します。そして最後は二人が今一番取り組みたい大曲「船弁慶」。どのような競演をみせてくれるでしょうか。

「邦楽四重奏団」は、東京藝術大学邦楽科を卒業した4人からなるアンサンブルで、箏・三絃・十七絃・尺八をメインとする楽器構成となつています。箏を平田紀子さん、三絃を寺井結子さん、宮城道雄が創作した十七絃を中

島裕康さん、そして尺八を黒田鈴尊さんが担当することが多いようですが、箏曲ジャンルでは、演奏家は三絃・箏のいずれも演奏することが求められ、黒田さん以外の3名の方々は、箏も三絃も自由自在に演奏されます。「邦楽四重奏団」は、「日本の伝統楽器で今」とこれからの音楽を創ることをコンセプトに、作曲家との共同活動をベースとする「新作委嘱」、いわゆる古典となりつつある「現代邦楽作品」の再演、そしてその根幹となる「古典三曲合奏」の三つの視座をもって活動している若きチャレンジャー。今回のプログラムでもその魅力は遺憾なく発揮されます。古典からは「松竹梅」、現代邦楽からは「尺八と二面の箏と十七絃のための巫覡」をはじめ4曲、そして彼らの委嘱作品「邦楽四重奏曲」を披露します。楽器の持つ様々な魅力の再発見になることでしょう。

インターネット放送やYouTube



杵屋佐喜

稀音家六四郎





左から寺井結子 中島裕康 平田紀子 黒田鈴尊



によつて様々なジャンルの映像や音楽を、好きな時間に視聴場所も選ばず、繰り返し何度でも自由に楽しめる時代になりました。けれども日本の伝統芸能は、このような技術改革やインターネット時代の恩恵をなかなか受けることのできない存在になっています。伝統芸能ジャンル／実演家へのサポートは少なく、経済的にも成り立ちにくい邦楽演奏会への支援は限りなく足りません。若い世代の多くの演奏家が、この「経済の壁」に深刻に直面している中で、この「邦楽 明日への扉」シリーズは、明日に向かって伝統を繋げていく若い世代の演奏家たちの大きな目標となることと思います。

文／藤本草(ふじもと そう)  
音楽プロデューサー  
(公財)日本伝統文化振興財団顧問

邦楽  
明日への



## 日本伝統芸能の音楽家に焦点を当て、「いま」を作り上げていく演奏家を応援する新シリーズ

### 第2回 邦楽四重奏団

東京芸術大学出身、古典にも現代曲にも通じる4人による邦楽四重奏団は2011年に結成されました。作品のコアを残せる形態としての四重奏への熱意が4人を衝き動かし続けています。古典から下山一二三・野田暉行ら邦人現代作曲家はもちろんクセナキスまで、「いま」の感性で邦楽を追求する箏・三味線・尺八の四人組。団のベスト・プログラムを選び抜いて11年目の集大成、ご期待ください。

出演 邦楽四重奏団

曲目 ミツ橋句当：松竹梅

下山一二三：尺八と二面の箏と十七絃のための巫覡(カンナギ)

野田暉行：尺八、二面の箏のための「春の調」

クセナキス：《入陽》

旭井翔一：邦楽四重奏曲



2023  
2/25  
14:00

### 第1回 杵屋佐喜・稀音家六四郎

美声が心揺さぶる杵屋佐喜と、正統派の風格ただよう稀音家六四郎が登場。それぞれ「家」の芸を大切に守りながら精力的に活躍するふたりの長唄の世界にご案内します。長唄をコンパクトに、初めてでも聴きやすくまとめた芙蓉曲は、邦楽版「みんなのうた」ともいえそうです。

神田祭は今に息づく江戸・東京の風物詩。日本人の魂が騒ぐことまちがいありません。最後は圧巻の大曲・船弁慶。佐喜・六四郎の丁々発止のやり取りをお楽しみください。

出演 杵屋佐喜(唄)

稀音家六四郎(三味線)

福原百之助(囃子)

湯川亜也子(メゾソプラノ) ほか

曲目 芙蓉曲より

「案山子」「鈴鹿時雨」

「浮かれ黒猫」

長唄「神田祭」 ほか



2023  
1/8  
14:00

料金：全席指定

2公演セット券 5,000円 各回 3,000円 各回U29席 1,000円

発売開始：2公演セット券 10月27日(木)

第一回公演券 11月10日(木)

第二回公演券 12月8日(木)

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

写真すべて © 堀田力丸